

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071600518		
法人名	社会福祉法人 平成福祉会		
事業所名(ユニット名)	かぐのみ苑湯浅グループホーム(さくら町)		
所在地	有田郡湯浅町湯浅2032-1		
自己評価作成日	平成27年8月25日	評価結果市町村受理日	平成27年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp">http://www.kai.gokensaku.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の催し物への積極的な参加や小学校との係り等の交流を大切にし、苑内でも個別ニーズを重視した援助に力を入れています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の重度化が進む中で、張り合いのもてる生活を保つという理念を職員は常に念頭に置き、利用者の思いの実現を最優先に、職員自身が張り合いをもって支援に徹している。健康面で生活を支える医療についても、複数の医師による往診を中心に、医師及び看護師と密に連携する事で、適切な医療が実施されており、利用者のみならず家族等にとっても安心のできる体制となっている。地域との交流については、以前の取り組みの弱さを反省し、地道で尚且つ粘り強い活動を続けた結果、事業所と地域との関係は着実に深まりつつあるが、目下の課題を災害時の協力体制の構築に置き働きかけを展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流(密着)を踏まえた理念を毎朝唱和することによって実践につなげている	理念は事業所開設時に職員が案を出し合い、一つにまとめ上げたものである。事業所内に掲げると共に毎朝の唱和を通して、管理者と職員は理念を共有しながら、実践に繋げており、名実ともにケアサービスの原点となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に買い物に出かけたり、地元の祭りやイベント(敬老会等)への積極的な参加や教育委員会との協同でのふれあい教室を開催している(町内の小学生との交流)	理念に沿って地域との関わりを重視し、町内の小学生の訪問を受けたり、地域の催しに利用者と一緒に出かける等で活発に交流を進めている。又地域住民の認知症への理解を深める為の啓発講座に参加する等、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4回季刊誌を発行し、苑内の様子や介護、生活に役立つ記事を掲載し、スーパーや官公署、他の福祉施設に配布している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催 会議では苑内の行事や入退所者状況を報告し、意見を聞いたりしてサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者家族・民生委員・行政担当者等が出席し、利用者の暮らしぶりや事業所のサービス内容、外部評価への取り組みの進捗状況等を報告し、話し合いを行う中で、出された意見や提案を事業所の活動に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と入所に関する相談、入所後の経過報告を行っている	町の担当者には運営推進会議の場で、生活保護担当者には定期訪問の機会をとらえ、事業所のサービスの現状や課題等を伝えている。又地域包括支援センターの依頼を受け、直接自宅を訪問し認知症の方や家族等と面談や助言をする等、行政担当者との協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会にて、身体拘束廃止についての資料を配って学ぶ機会を設けている 又、設置上やむを得ずエレベーターは安易に使用できないようにしている	事業所内での研修や外部研修だけでなく、定例会議や日々のミーティングを通して理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、見逃しやすい言葉による拘束についても自己点検・相互確認を徹底している。危険な場合を除き、利用者の行動を抑制する事はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての資料を配布したり、外部研修に参加した職員の発表など学ぶ機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見人制度について資料で配布し利用者の中で必要性のある方に活かしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、家族の不安や疑問を尋ね、理解納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃の会話から、家族とは面会時やケアプラン作成時に、また家族会を開催し意見要望を聞き出している	利用者及び家族等の意見・要望を日々の生活の中や面会時、年1回程度開催する家族会等で聞き取り、運営への反映に努めている。エレベーター横に備えた意見箱や苦情・相談窓口の掲示は、利用者や家族等が事業所又は第三者機関に意見・要望を表せる機会の確保に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引き継ぎのミーティング定例会議において、意見や提案を聞いたり、人事考課の用紙に無記名の書面で提出など反映されている	職員は日々のミーティングや月1回の定例会議の場以外にも、書面や口頭で、管理者又は直接代表者に意見・提案を活発に出しており、内容による制約は全くない。利用者の重度化に伴い、シャワーキャリー・リクライニング車いす等の処遇に不可欠な機器の購入が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施し、昇給を賞与に反映又、各事業所同士で利用者人数アップや節約に貢献したら忘年会の場で寸志がもらえるなど、向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会、新人研修や外部研修を受ける機会の確保、現場において職員の力量に応じた指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームへ季刊誌(かぐのみ便り)を配布し、情報交換を行ったり、グループホームの管理者が参加する外部研修に参加し、交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人の希望を確認し、良い関係作りができるよう取り組んでいる また、希望があれば苑の見学もしていただいている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なく利用していただけるよう、話を聞く機会を持ち、要望などを伝えていただき、信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況や本人の気持ちを尊重し、ショートステイ、ヘルパー、デイサービスを利用し、徐々にサービスに慣れていただいでから入所に至るケースもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく中で、入所者から学ぶことも多く、共に支え合い良い関係が築けるよう取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加への呼びかけや通院、外出支援、面会など可能な範囲で協力をしていただき、本人を支えていく関係作りができるよう取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人等の面会、家族との外出、外泊を自由にしていただいたり、地域の催し物への参加等これまでの関係が途切れないように支援している	外出・外泊については、家族等の都合によっては職員が送迎の支援を行い、実現を後押ししている。又電話の活用、地域行事への参加、併設の特別養護老人ホームやデイサービス利用者との交流等を積極的に進めながら、馴染みの人や場との関係継続を支援している。友人や近所の知人の訪問を受けた際には思い出話に花が咲き、楽しい一時である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、テーブル席や作業場所、外出時の組み合わせに配慮し、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等でサービス利用が終了してからも他のサービスが受けられるよう支援し、家族とは行事の際など、ボランティアに参加していただいたり関係性を大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向の把握、また思いを表すのが困難な場合は、日々の暮らしの中で要望等推測し、その人らしい暮らしを続けられるよう努めている	利用者の表情や言動に加え、以前の生活の情報から、一人ひとりの思いや意向を把握することに努めている。また、センター方式の部分的活用により、職員間での共有を図っている。職員による思い込みや決め付けがないかを常に話し合いながらの支援である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント用紙を活用し、入所前に家族に記入していただき、これまでの生活歴等把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の暮らしや、心身状態のケース記録を作成し、記録することで現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時や必要時に職員間でカンファレンスを開催したり、本人や家族、担当医の意見を参考にし介護計画を作成している	本人や家族等の意見をもとに、職員間で課題の解決に向けての取り組みの検討を重ね、医師・看護師等、関係者との話し合いから得た意見やアイデアを反映させて介護計画を作成している。また、モニタリングでの調整により、現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を細かく記入し、報告を毎朝日行い、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や行事等で苑の車を利用していただいたり、その他にも希望や必要性があれば苑の車を利用し外出支援に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町や区の行事への参加や小中学校の生徒との交流、実習生の受入やボランティアの慰問、消防や警察等様々な地域資源と協働できるよう取り組んでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でかかりつけ医を選んでいただいたり、定期的な受診、往診、緊急時の対応等、家族および職員の援助にて対応し、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は本人及び家族等が選び、往診を利用したり、家族又は職員の送迎により受診している。口頭又は書面での情報提供を必ず行い、医師及び家族等との連携を深めながら受診を支援している。また、ノートを用いて職員間の情報の共有及び周知を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、地域の訪問看護師と協力し適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族と連絡を取り合ったり、面会し状態を確認し主治医と相談したうえで、早期に退院できるよう取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入所契約時に説明を行い、本人や家族の意向に添えるようかかりつけ医や訪問看護師等と協働し、支援していけるよう取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は契約時に説明し、本人及び家族等の意向を確認している。重度化した場合は医師・看護師等関係者との連携を密にしながら支援している。また、終末期についても対応可能な体制をとっているが看取り実施に至ったケースは今のところはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、職員間での周知を徹底している。また、定期的に救急救命講習を受講し、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を行い、そのうち1回は消防立ち合いのもと行っている また、地域の避難訓練にも参加している	マニュアルに基づいて定期的に避難訓練を実施しており、利用者と職員が共に参加している。地域との協力体制の構築は事業所の課題であるとの認識のもと、運営推進会議等での働きかけを強化し、地域の訓練にも参加しているが事業所の訓練への地域住民の参加は実現していない。	すべての職員一丸となり開かれた事業所づくりへの取り組みが功を奏し、地域住民との交流が活発に行われている。訓練への住民の参加に向け、運営推進会議をはじめ折にふれて地域の協力の必要性を説明し、理解を得ながらより強固な協力体制を築いてゆく事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉がけを意識している また、ケア中の情報が周囲に伝わらないように、職員間ではイニシャルや記号を用いて対応することがある	呼称は基本的に姓を用い、介護の際の言葉かけや対応が誇りやプライバシーを損ねることがないよう十分に注意を払っている。事務所には利用者も自由に出入りする為利用者が特定されないよう配慮し、会話している。又利用者情報についても鍵のかかる場所に保管する等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切にし、自己決定ができるような場面作りを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人にあわせその人らしい暮らしができるよう取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの格好ができるよう家族に協力して頂いたり、家族支援による美容室への外出や、定期的に美容師に来苑してもらい、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや片づけ、食事を一緒にしたり、一人ひとりのできる事を見極めながら、一緒に行っている	本人や家族等から好みの物を聞き献立に取り入れている。盛り付けや後片付け等に参加できる利用者は少なくなって来ているが、どのような形であれ利用者すべてが食事づくりに関わる事を重視しており、出来具合の評価で食卓が盛り上がることもある。折々に行うおやつづくりを利用者はもちろん職員も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し記録している また、一人ひとりの状態に合わせた飲食物を提供し、状態や力、習慣に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあわせた口腔ケアを行っている 希望者は週に1回歯科衛生士による口腔ケアを受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄ができるように自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの力を引き出し、排泄の失敗やおむつ等の使用を減らす事を目指し、職員は排泄チェック表のみに頼らず、利用者の動きを注意深く観察しながらトイレへの誘導を実施している。トイレの場所の失念による失敗を防ぐ為、突き出し式の表示板を取り付けたことで迷う事がほぼなくなる等工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食膳に体操をしたり、乳製品を提供するなど工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができるように準備し、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援を行っている	利用者一人ひとりの希望や状況に合わせての入浴であり、季節湯の実施は入浴の心地良さを倍加させると好評である。入浴補助機器の活用は利用者の負担の軽減に大きく貢献している。入浴を好まない利用者については、基本的に時機を待つという姿勢で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて休息したり、睡眠がとれるよう環境に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、いつでも確認ができるようにしている。また、薬の処方や変更は医療用のノートに記録し、服薬支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、個人に合わせた役割の提供や外出、催し物への参加等行うことで気分転換できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ・外食・遠足等家族やボランティアの協力を得ながら外出の機会を持つよう支援している	意思表示の困難な利用者についても思いを汲み取り、間を置かず戸外に出かけたり、買い物やドライブ等には日常的に出かけている。普段は行けないような場所へは年間の行事に組み入れて外出を支援しており、その際には家族や民生委員等のボランティアの協力が大きな支えとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を所持されており、使う機会を提供している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に苑の電話を使用していただいたり、手紙のやり取りもできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量やブラインドの調整、適度な換気やエアコンの調整等に配慮し、居心地良く過ごして頂けるよう取り組んでいる またトイレの目印や季節感を感じられるように花を飾ったり、手作りのカレンダーや壁画を掲示している	共用空間の五感刺激への配慮はもちろんのこと、利用者間の関係調整にも全職員が注意を払う等、季節の移ろいを感じながら居心地良く過ごせる暮らしの場を整えている。 ホール内の畳コーナーで利用者が洗濯物たたみに勤しむ等、日常生活の光景が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が談話や作業のできる場所づくりや、好みのテレビ鑑賞をしていただいたりし、心地よく過ごせるような環境作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で長年使い慣れた家具や好みの物、家族等の写真等を持ってきてもらい、居心地良く過ごせるよう取り組んでいる	利用者は思い思いに馴染みの家具や好みの物等を持ち込み、職員は本人や家族等と相談の上、動線等も考慮しながら配置に工夫をし、安全に落ち着いて過ごせる場としている。居室は内側からの施錠もでき、職員は出入り際には必ずノックや声かけを行う等プライバシーの確保に十分に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の畳対応や転倒防止のためのソファの設置、トイレや居室の目印等、一人ひとりに合った環境作りをしている		